

団体名	特定非営利活動法人 地域生活支援ネットワークサロン	所在地	釧路市
団体概要	<p>1993 年子どもたちの健やかな成長を願う「マザーグースの会」を前身として、2000 年に幅広く福祉のまちづくりを目指すことを目的に NPO 法人を設立。近年では、障がい児者の生活・就労等の支援、生活困窮世帯の子どもへの学習支援、孤立している人たちへのインターネット上の居場所提供など、権利を守られなかった人たちへの権利擁護、保障の活動を行っている。</p>		

若者たちの自立プロセスを地域の社会資源として活用するための 仕組みづくりのモデル事業（若者自立プロセス資源化モデル事業）

背景	<p>法人設立当初から、学びや社会参加の機会を失ってきた若者たちのことは意識していた。なかでも、代表理事がスクールソーシャルワーカーとして教育現場と関わるなかで、生きづらさを抱える子どもや若者に対しては、制度の整備が追いついていないことを実感していた。多くの若者が、さまざまな可能性をもっているが、それに気付かず、生かせる機会もなく、行き詰っている。このような若者たちと接していく過程で、次の 4 つが必要なのではないかとわかっていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身一つで来てても安心して暮らせる場所 ・生活の場面での学び直し ・人との関わりを通じた自己他者理解 ・社会参加の機会 <p>既存の事業を応用しながら、若者の問題に対応している中で、若者の成長を支えることで組織だけではなく、地域も成長する機会が得られることを知った。そこで、若者たちの自助グループ的な場として、本事業の前身となる「フレームフリープロジェクト」を 2015 年に立ち上げ活動を開始した。</p>
活動内容	<p>「フレームフリープロジェクト」では若者の集いの場が主体であったが、本事業では同プロジェクトをさらに発展させ、支援する側・される側ではない形で若者当事者が主体となって活動する以下のような取組を 2020 年度より展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 無料または安価な住まいの提供：さまざまな理由で行き場を失っている若者を受け入れ、安心して先のことを考えられる場と機会を提供する。 ② 生活支援：無料または安価な食事を中心に日常生活のサポートを行う。 ③ 何でも相談：経済・仕事・生活・人間関係など、一緒に考える。 ④ 就労または就労のための体験や実習：一人一人の心身の状況やニーズに合わせて、多様な働き方を提案・調整する。 ⑤ 各種活動プログラムの機会提供や共同開発：研究会や勉強会、食事会、スポーツ活動などで心身の回復や生活の向上、社会参加の促進を図る。

上記のような取組を通じて、若者たちは、社会や自分について考え、自分たちの個性豊かな潜在能力を発見する。本事業ではそうしたプロセスを支え、若者たちが社会の担い手となっていくこと、社会を変えていくことを目指している。

休眠預金の助成金としては、人件費、若者たちへのアルバイト料のほか、釧路までの移動費や引っ越し費用、共同生活場所「無一文ハウス」の食費や維持管理費に利用しており、既に全国から問い合わせと移住に対応している。そのほか協力者への謝金や

イベント運営、広報などにも利用している。

活動を実施する中での気づき・発見（成果・効果）

生きることに行き詰っていた若者が、仲間との交流や、自分にも社会に役立つことができるという経験を重ねることで心身の健康を徐々に取り戻し、自信と社会性を身に付け、できる形で、若者をサポートする側としても働いており、支えられる側が支える側に回るなどの状況が見えつつある。

また、若者が集まることで、自分たちだからこそできる仕事を創出する動きや、働く場を確保する動きが生まれ、さらにそれらを新たな若者たちが手伝うをという好循環が生まれている。

課題、今後取組もうとしていること（展望）

この事業を継続することで、従来の福祉や支援の枠組みを越えて、若者たち、地域人材、市民活動団体が協働となって地域の社会資源となる仕組みを作り上げることを目指している。



身ひとつで来た若者が居住することができる「無一文ハウス」



リビングは様々な事業やプログラムがごちゃ混ぜになって、人が集い、関わり合いを行っている

活動内容に関する問い合わせ先

特定非営利活動法人 地域生活支援ネットワークサロン 担当 大木 瞳
メール：frame.free.project@gmail.com